

生きる力の育成

「子どもの成長を支えるPTA活動」

下関市立文洋中学校PTA

1 地域、学校の概要

PTA会長 : 舟 木 文 晃
学 校 長 : 野 村 義 徳
生 徒 数 : 150名 (1年生53名、2年生42名、3年生55名)
学校所在地 〒750-0061 下関市上新地町五丁目6番1号
TEL 083-223-8176
FAX 083-223-8177
U R L : http://kam.edu.city.shimonoseki.yamaguchi.jp/~bunyou_c/
E-mail : bunyou-chu@edu.city.shimonoseki.yamaguchi.jp

(1) 校区の様子

JR下関駅周辺を中心に、下関漁港、関釜フェリーの発着場を間近にひかえた県内でも有数の商業地が校区である。

地域住民の方々は本校の卒業生も多く在住され、温かく生徒を見守る風土がある。特に青少年の健全育成には関心が高く、校区青少年健全育成協議会に毎年多くの賛助会費の協力がある。

学校は響灘を望む高台に位置しており、夕方には海に沈む夕日が神秘的である。少子化が進み、最大で2700名の生徒数が近年は200名を割り込み、今年度は150名である。

(2) 生徒の様子

特に今年度は、体育祭や文化祭を「生徒の手による学校行事を」という取組が功を奏し、生徒たちは苦労の後の感動を味わい、特に最上級生の3年生の多くの生徒が各行事のフィナーレで大粒の涙を流した。また、その姿を見ていた1、2年生は、「来年は自分たちも」、「今年よりよいものを」という意気込みを表している。今後の生徒の活躍に期待したい。



(3) 学校の経営概要

①教育目標

「夢をもち、常に努力する、健康で心豊かな生徒を育成する」
 ～いま、夢への挑戦がはじまる～

②目指す生徒像

- ・進んで学び、考え、知識を活用する生徒
- ・豊かな心をもち、自他を大切にする生徒
- ・心身ともに健康で、最後までがんばる生徒

③目指す教師像

- ・常に授業改善しながら学習指導をする教師
- ・生徒の心に寄り添い、粘り強く毅然とした生徒指導をする教師
- ・家庭や地域との連携を推進する教師

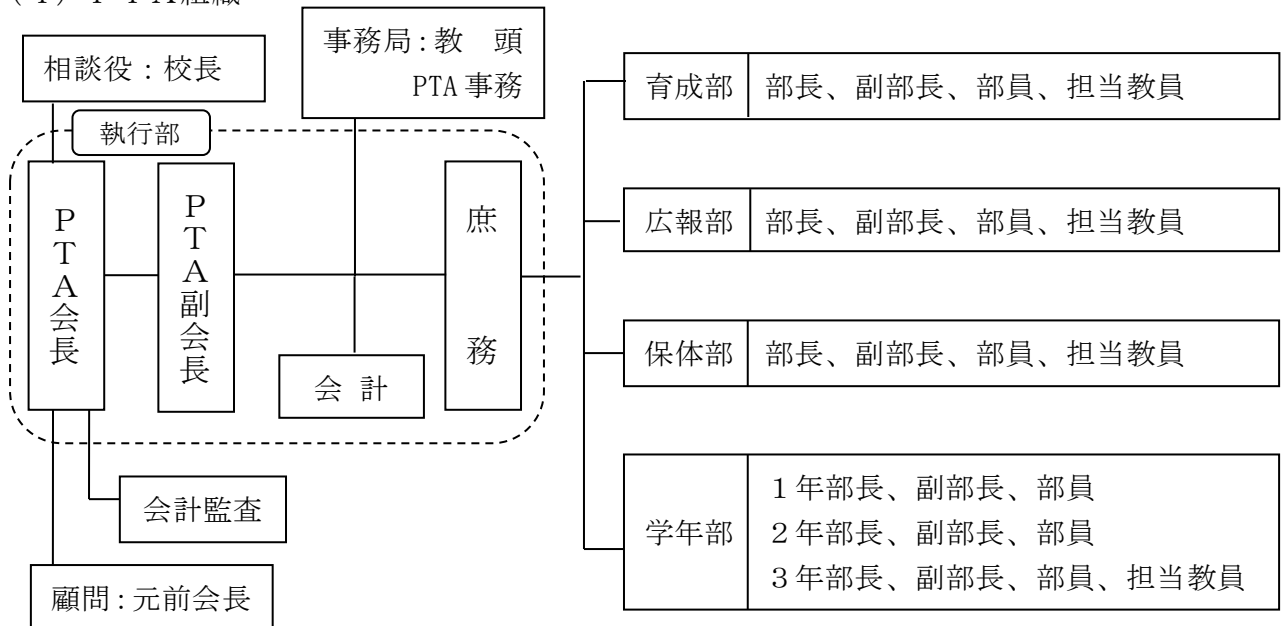
④学校チャレンジ目標

- ・「美」：心も環境も美しい文洋中
- ・「礼」：礼儀正しい文洋中
- ・「時」：時間が守れる文洋中

⑤教職員の活動指針

- ・フットワーク、チームワーク、ネットワーク

(4) P T A組織



すべての家庭が育成部、広報部、保体部、学年部いずれかの部に所属し、部長を推進役とする P T A活動に携わっている。

2 研究主題について

子どもの成長を支えるPTA活動

現在の社会は、少子高齢化、グローバル社会、情報化社会、雇用形態の変化、格差の拡大などが急激に進展する中で、子どもたちにも学力の不振、学ぶ意欲の低下、規範意識の低下、いじめ、不登校、引きこもり等の様々な課題が生じてきている。

このような状況の中において、私たち文洋中学校PTAは、学校と家庭がスクラムを組み、地域の教育資源を巻き込みながら子どもたちの教育を進める必要性を強く感じている。

そこで、この度「子どもの成長を支えるPTA活動」という主題を掲げ、今年度のPTA活動に取り組みたい

また、学校・地域・家庭の連携が必要とされる中での父親（おやじ）の新たな役割が必要とされているという認識のもとに、新たに「おやじの会」を組織し、子どもの成長を支えていきたいと考えている。

<今年度の主な活動計画>

予定時期	学校行事・PTA活動・支援活動等	備考（主な担当部）
5月上旬	PTA総会、歓迎会	執行部
5月下旬	小中合同クリーン作戦	全体
6月上旬	地区育成協議会総会	育成部
	日曜参観日	全体
6月下旬	地区3校児童球技大会	保体部
7月上旬	地区4校PTA球技大会（11月実施）	保体部
	地区育成協地区懇談会	育成部
7月下旬	土曜巡視	育成部
7月下旬	広報誌発行	広報部
8月上旬	PTA奉仕作業	学年部
9月上旬	体育祭、バザー	全体
10月中旬	文化祭、バザー	全体
11月上旬	人権参観日、キャリア教育講演会	全体
	地区公民館文化祭	全体
11月中旬	地区育成協 教育講演会	全体
	環境整備・おやじの会発足会	全体
12月中旬	広報誌発行	広報部
	土曜巡視	育成部
2月上旬	PTA後期総会	執行部
3月上旬	卒業式	執行部
	広報誌発行	広報部
随時	各種学校行事、学年行事、授業補助、部活動補助、ボランティア等	

3 P T A活動の様子(学校支援の様子)

(1) 体育祭バザー、P T A競技への参加

文洋中学校体育祭では、P T A執行部と学年部が中心となり、お茶やジュース等の販売バザーに取り組んでいる。本年度は天候にも恵まれ、生徒たちの楽しみの一つにもなっている。

P T A競技には、学年対抗リレーに加えて、地域の幼い子どもからお年寄りの方まで参加できる玉入れを行った。和気あいあいとした和やかな一時を過ごすことができた。



(2) 文化祭バザー

本校のP T A活動の中で、執行部を中心に四つの部が連携して取り組んでいるのが文化祭のバザーである。毎年、カレーやうどん、ショートケーキにコーヒーなどの販売に取り組み、生徒や保護者、教職員の昼食にも多く利用されている。

今年度は、新たにエビフライ・カレーと三種類のソフトクリームをメニューに加え、生徒や保護者から好評を得た。

バザーの収益金は、主にP T A活動の運営費に使われる。また、昨年度に引き続いて、県内外で発生した豪雨災害被害地への支援として募金を行った。



<人で溢れかえっているバザー会場>



<早朝より始まったバザー準備>

(3) 4校PTA親睦球技大会

本校の中学校区には3つの小学校があり、毎年、PTAの親睦球技大会を開き交流を図っている。今年度は、本校の校内事情により11月末に開催した。

ペタンク競技に、各校2チーム計8チームがリーグ&トーナメントにより競技を行った。今年度の優勝は主催校の文洋中学校Aチーム、念願の初優勝を果たした。



<ナイスショットにハイタッチ！>



<一投一投に注目！>

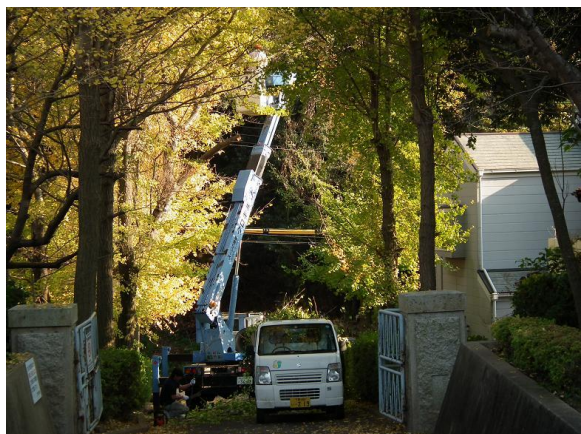
(4) おやじの会が発足

PTA会長と副会長の発案で、今年度「おやじの会」が発足した。

「おやじの会」と言っても、父親だけでなく、母親はもちろん、子どもさんが卒業された保護者OBの方、地域の方…etc 様々な人に参加してもらいたいと考えている。

第1回目の会として、教職員や生徒だけでは作業が困難な正門前の樹木と校庭の植木の剪定を行った。正門前のイチョウとサクラは、保護者OBの方が手配してくださった重機が大活躍した。

夕方からは慰労を兼ねた反省会をもち、今後の「仮称 おやじの会」のあり方について熱く語り合った。環境整備をはじめ、学校には「おやじの会」の協力が必要であることを痛感した。



(5) P T A奉仕作業

毎年、夏休み中に、学校の環境整備を目的に奉仕作業を行っている。

グラウンド及びその周辺の除草と溝の泥上げ、花壇の除草、校地法面の草刈り等に取り組んでおり、今年度はこれらに加えて、夏に行った校内危険箇所点検で明らかになった箇所の除去も行った。

この奉仕活動には、保護者だけでなく、地域の方の協力もいただいております、学校もP T Aも非常にありがたく感じています。



<地域の方による法面の草刈り>



<生徒とお父さん方による泥上げ>

(6) 土曜巡視

本校の校区では、地域の補導委員による補導活動（見回り活動）が毎月実施されている。P T A育成部では、7月の夏休み前と12月の冬休み前に補導委員と連携して補導活動（土曜巡視）を行った。

この土曜巡視では、教職員も含めて1回あたり20～40名程度が集まる。複数のグループに分かれて、大型のショッピングセンターやゲーム場、地域の公園、マンションやビルの陰の暗がりや駐車場などを巡視し、気になる子どもを見かけたときには声かけを行っている。



<7月の土曜巡視、先頭は補導委員の方>

(7) 地区育成協議会総会・地区懇談会への参加

本校校区には「文洋校区青少年健全育成協議会」があり、学校関係者（文洋中学校と校区三小学校の教職員代表やPTA代表）はもちろん、少年相談員や保護司、主任児童委員など、地域の様々な立場の人々が地域の子どもたちの健全育成に携わっている。

PTAの育成部部員もこの協議会の総会や地区懇談会に参加し、地域の子どもたちの健全育成に携わっている。

今年度は、夏に総会と地区懇談会を同日開催し、約90名の参加者が小グループに分かれて「地域の役割、学校の役割とは」と題して意見交換を行った。(写真左)

また、教育講演会では、校区3小学校の5、6年生と中学生に本校の卒業生である山口大学教育学部教授 木谷秀勝先生に「『こころ』について考える」と題した講演を行った。(写真右)



(8) その他の諸活動

ここまで紹介した活動の他に、次のような様々な活動に取り組んできた。

- 保護者の視点を生かした校内安全点検(写真左)
- 校内の環境整備に寄与する生花の協力(写真右) 通年随時
- 学校保健安全委員会（救命蘇生法講習会）への参加
- 3小学校親睦球技大会の運営手伝い
- 校外美化ボランティアへの参加、支援
- 文化芸術講演会への金銭的支援 他



4 成長する生徒の活動の様子、感想等

(1) 体育祭

体育祭実行委員長として、体育祭の準備や練習に取り組んできた。今年は生徒の手で創り上げるということで実行委員を組織し、運動会から体育祭という名前に変更した。最初は不安ばかりだったが、何としても成功させたいという気持ちで何とか本番までやってこれた。・・・中略

僕の笛の合図で行進が始まり体育祭がスタートした。終わった時は自然と涙があふれた。

実行委員長としてみんなを引っ張れたか、自分の仕事はできたかはわからないが、この体育祭の成功は全校生徒の力だ。みんなに感謝したい。 <体育祭実行委員長>

前略 僕は体育祭が終わるとき、あそこまで涙が出るとは思っていなかった。あの体育祭を誇りに思う。一緒に今年の体育祭を創り上げたみんな、仲間たちに感謝したいと思う。 <白組 応援団長>

前略 陰で支えてくれた先生や保護者の方々、本当にありがとうございました。この体育祭を体育祭だけで終わらせずにこれからの生活に役立てていきたいと思う。 <青組 応援団長>

今年の体育祭はとても感動しました。まず、自分は応援団になりました。最初の頃は「これはマズイ」と思うくらいやばかった。校歌の声は小さいし、自分は声をかけることもできなかった。・・・中略

でも、応援合戦の完成図が見えてくると、バラバラだったピース一つ一つがまとまって、一枚の大きな絵になるようだった。体育祭では、見事に応援優勝ができて今までの体育祭にはない喜びがわいた。・・・中略

今年の体育祭では、「勝利」というものより大事なもの、「敗北」よりも悔しいものが見つけられた。 <2年生の応援団員>



<白組 応援合戦の演舞>



<閉会式後に涙が止まらない実行委員>

(2) 文化祭

今年から文化祭実行委員会を立ち上げ、生徒の力で文化祭を創り上げることができました。限られた時間でやるべきことがたくさんあり、大変なこともありましたが無事に終わることができほっとしました。それと同時にとても胸が熱くなりました。特に合唱コンクールでは、みんな気合いが入っていて自主練習をするクラスもできました。練習を重ねるごとに、日に日にみんなの声がかっこよく重なるようになり、「これが歌をつくるということなんだ。」と改めて感じました。

今年の文化祭は合唱と同じように全校みんなで時間を重ねてつくった文化祭だと思います。私にとって一生の思い出に残る最高の文化祭となりました。

<文化祭実行委員長>



<地域に伝わる平家太鼓の披露>



<生徒会によるオープニング>

(3) 地域防災学習

地球温暖化を主な起因とする異常気象等が報道される昨今、防災教育の重要性が指摘されている。本校では、専門家による防災教育に取り組んでいる。今年度は、山口大学院教授を招いて、自然災害発生のメカニズム、危険から身を守る手立て等について学んだ。(写真左)

また、生徒集会において、下関市が作成したハザードマップを活用して、地域の危険区域や避難場所について確認した。(写真右)



(4) その他様々な活動の様子



< N I Eにも挑戦中 >



< 地域の文化祭でも太鼓等を披露 >



< 心肺蘇生術の講習会 >



< 校区内の保育園で保育実習 >

5 成果と課題

今年度、子どもたちは、いろいろな取り組みをしていく中で、様々な困難、葛藤、挫折を感じ、協力、団結、思いやりなどの大切さを学び、大きな達成感、充実感、成就感を体感したようだ。活動の後の彼らの姿から、家庭では見られないたくましさや成長ぶりを強く感じ、親としても誇らしく思えた。

P T Aとして様々な学校支援や活動に取り組んできたが、これらの子どもたちの成長ぶりを間近に感じることができ、とても充実した一年間であった。また、無事に終えることができたことに安堵している。

課題としては、昨今の本校は生徒数の減少により、P T A活動に参加してくださる保護者の数も少なくなり固定化されつつある。また、子どもたちが安全に学校生活を送る環境づくりの支援を…との思いでおやじの会を発足させたが、人数不足が大きく浮き彫りになった。今後は、現保護者はもちろん、O Bの方々にも声をかけ、教職員や生徒だけでは困難な環境整備をはじめ、様々な学校への支援の輪が広がるよう工夫をしていきたいと考えている。